

教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果報告書
(平成28年度実績)

平成29年12月

平生町教育委員会

<目 次>

	P
はじめに	1
学校教育	
主要な施策の成果	4
学校施設整備事業	7
コミュニティ・スクール推進事業	9
佐賀小学校小規模特認校事業	11
学び支援事業	13
平生っ子学びのイノベーション推進事業	15
社会教育	
主要な施策の成果	17
中央公民館耐震化・トイレ改修事業	22
土手町南蛮樋基礎木材保存事業	24
勤労青少年ホーム教養講座事業	26
歴史民俗資料館特別展示事業	28
スポーツ推進事業(ファミリースポーツレクリエーション大会)	30

【はじめに】

1 趣旨

少子高齢化の進行や高度情報化の進展、地域の連帯感の希薄化など、社会情勢が大きく変化する中、本町教育委員会では、第四次平生町総合計画において、「みんなの笑顔が輝くまち」という基本目標のもと、「子どもたちの笑顔が輝くまちづくり」、「生きがいに満ちたまちづくり」の基本政策により、学校や地域において具体的な事務事業に取り組んでまいりました。平成23年度からスタートした前期基本計画の5年間の検証と施策の見直しを行い、後期の基本計画を策定し、平成28年度から取組を進めています。

また、教育委員会制度の見直しが行われ、「総合教育会議」の設置と「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の策定が義務付けられ、本町においても、「総合教育会議」を開催し、町長による「教育振興基本計画」が策定しているところです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の規定により、全ての教育委員会は、効果的な教育行政を推進するために毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、住民への説明責任を果たすことが求められており、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

そこで、本町教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政を推進するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、平成28年度の事務事業について、点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象及び期間

点検・評価の対象は、「平成28年度平生町の教育」基本方針の努力点及び「平成28年度各課の基本的な考え方」の重点事項、その他の主要な事業を対象としました。

点検・評価の対象期間は平成28年4月から平成29年3月までの事業です。

3 点検・評価の方法

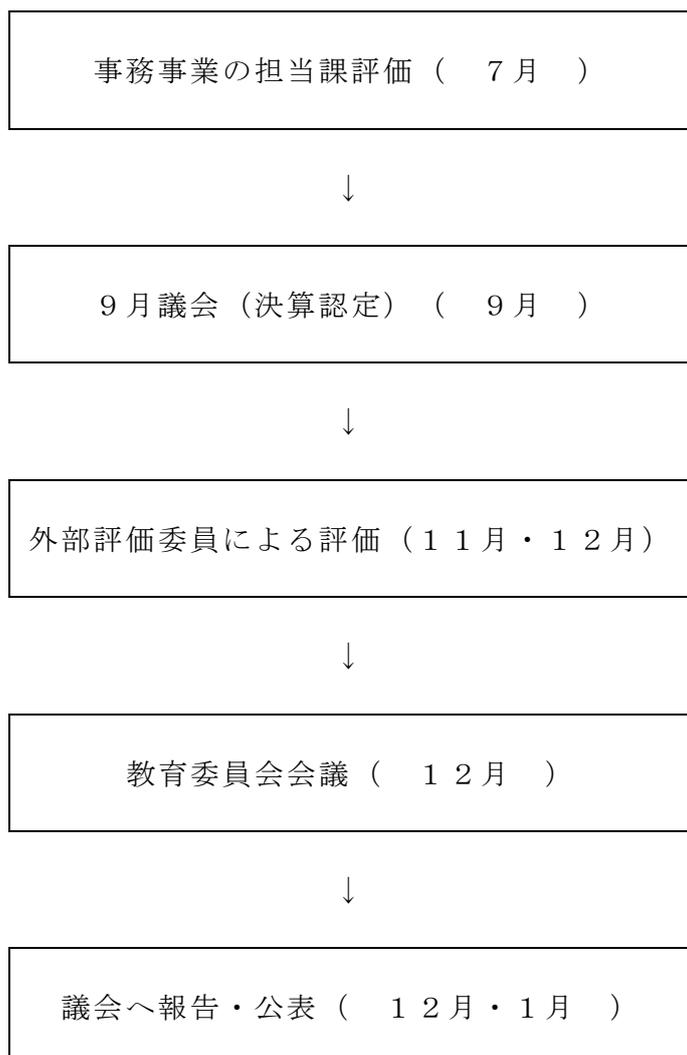
今年度も、昨年度と同様に教育委員会による自己評価と併せ、教育行政評価委員による外部評価を実施しました。

法第26条第2項の規定による教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、教育委員会事務局が実施した自己評価による点検・評価の結果について、「平生町教育行政評価委員会」を設置し、下記の3名の委員から所見等をいただきました。

(敬称略)

氏 名	所 属 等
清 時 学	光輝病院事務次長
中 田 政 明	ひらお保育園長
福 山 圭 子	平生町小・中合同学校運営協議会長

4 実施フロー



5 まとめ

教育委員会の所管する事務の点検・評価については、教育委員会独自の自己評価（内部評価）に併せ、外部評価委員（教育行政評価委員）による対象事務事業の成果等の点検・評価を行いました。

平成28年度の学校教育の基本方針「未来を拓く たくましい『平生っ子』の育成」に基づき、ICT機器の導入・効果的な活用により、学力の向上を図ったほか、子どもたちの自発的な学習意欲を支援するため、学び支援事業制度の創設、英語指導助手の増員、特別支援教育の充実、幼・小・中の連携強化、キャリア教育の充実、コミュニティ・スクール事業の推進をはじめとしたソフト事業の充実と学校施設の改修など、安全・安心な教育環境の整備を柱とし、事務事業を推進しました。

社会教育の基本方針は「学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進」とし、青少年健全育成活動や、新たな取組として夏休み子ども会研修旅行を企画するなど、子ども会活動の充実、広報において、各種団体の活性化や会員の増加をめざした生涯学習サークルの紹介、人権学習講座の開催、土手町南蛮樋移築復元完成を祝う行事の開催、同樋門基礎部木材の保存、中央公民館の耐震改修工事の実施、読書に親しむ環境づくり、生涯スポーツの推進に努めるなど、ソフト・ハード両面において事務事業を推進しました。

評価対象事業については、新規事業を加え、継続事業を削除するなど、対象事業の整理を行い、学校教育、社会教育合わせて10事業としました。

今回、学校教育及び社会教育の主要な10事業について、まず、事業の必要性、有効性、経済・効率性、目標達成度の視点でもって、内部評価を行いました。

各事業は目標どおり、あるいはほぼ目標どおりに進捗しているという評価をし、この内部評価をベースに教育行政評価委員による評価が行われました。

教育行政評価委員からは、個別事業について、それぞれ意見が出されました。また、教育行政全般については、次のような意見が出されました。

- ・事務事業の趣旨を考慮し、その事業が今後「ひとづくり」につながっていくかどうかという視点で評価を行ったので、事業の進捗についてしっかり検証しながら、取り組んでほしい。
- ・事務事業を今後発展させていくのか、あるいは統廃合するのか、今回の評価を参考に、今後の方向性を見出してほしい。
- ・評価対象外となっている事業についても、常に検証し、より良いものとなるよう、取組を進めてほしい。
- ・人口定住に向けた取組として、教育環境の整備は重要であるので、重点化することと併せて、町の良さ、学校の魅力を積極的に情報発信してほしい。
- ・子どもたちの育ち、学びに係る様々な取組が行われているが、その取組の中で子どもの自主性を伸ばすこと、保護者や地域の方の参加を促すことなど、学校、家庭、地域が一体となった取組を今後も進めてほしい。

個別事業に対する委員の意見を踏まえながら、上記の全般的な意見を次年度以降の施策に反映させていきたいと思っております。

学 校 教 育

学校教育

基本方針『 未来を拓く たくましい 「平生っ子」の育成 』

学力の向上と確かな「生きる力」の育成

・町の**学力調査**は、小学校3年生～小学校6年生、中学校1、2年生を対象に、全国学力・学習状況調査や県の学力定着確認問題調査の実施時期を勘案して、国語、算数・数学の教科を3学期に実施した。この調査により、年間を通して、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、児童生徒への指導や学習状況の改善等に役立て、併せて学校と家庭が課題を共有し、その課題解決に向けて連携して家庭学習等の充実を図ることで、学力の向上に資することができた。

・学校図書館の充実を図るため、図書館司書の資格所持者を**学校司書**として小中3校で2名引き続き配置した。司書教諭の補助的な役割を担ってもらうとともに、児童生徒と本をつなぐ役割も担っている。

・**平生っ子学びのイノベーション推進事業**として、28年度は、佐賀小学校に電子黒板、書画カメラ、パソコン及びタブレット学習システムを導入し、ICTを活用した「わかる授業」の実践や、児童の「情報活用能力」の育成に努めた。今後、平生小及び平生中においても年次的に整備を進め、学力の向上につなげていきたい。

・**学び支援事業**として、子どもたちの自発的な学習意欲を支援し、学力の向上を図ることを目的に実用英語技能検定の検定料の1/2を助成する制度を創設した。

・新たに**英語指導助手**（ALT）を1名配置し、2名体制で、中学校及び小学校の英語教育の充実を図った。併せて、ALTによる小学校及び幼稚園における国際理解に関わる活動を行い、幼児期からの取組みを進めた。今後も幼小中のつながりを持った英語教育を推し進めたい。

・**スクールソーシャルワーカー（SSW）設置事業**に引き続き取り組み、課題のある家庭への迅速かつ適切な支援に資するため、専門相談を行い、各学校の実情に応じた指導体制の充実を図った。また、スクールソーシャルワーカーによる「共育相談会」を開催し、教育相談及び就学相談を行った。

・不登校やいじめ防止、あたたかな人間関係づくりのためのアンケート「**QU、ハイパーQU**」についても、小5、6、中1～3を対象に引き続き実施した。不登校やいじめなどの予防対策に活用している。

・佐賀地区の子どもの減少を受け、佐賀小学校において、昨年度から1学級減少したものの、**複式学級**が1学級（3、4年）設置された。児童及び保護者の複式学級に対する不安を払拭するため、県雇用の補助教員を1名配置したほか、町雇用の補助教員を1名配置し、主要教科の授業は極力複式学級を解体して行うなど、きめ細かな配慮を行った。

また、佐賀小学校においては、小規模校の特性を生かした教育活動を推進し、小学校で学びたい、子どもを学ばせたいという希望者に対して、一定の条件のもとに通学区域外からの入学を認め、児童を受け入れる制度として、**小規模特認校制度**を設けて、児童を募集したところ、平成28年度は、8名の児童がこの制度を利用して通学した。

今後も特色ある教育活動を行う小規模な学校の一層の活性化を図るため、ホームページ等を活用し、この制度の周知に努めたい。

安全・安心な教育環境の整備

・佐賀小において、小プールの塗装工事を行ったほか、平生中においては、管理・特別教室棟の屋上防水改修工事、放送室の天井改修工事、教職員用のトイレ改修工事を行った。

・平成27年度に学校施設の耐震化が完了したことから、今後は老朽化した学校施設の改修については、町公共施設等総合管理計画に基づき、施設の個別計画を策定し、年次的に改修を推進していきたい。

・遊具点検については、多くの園児や児童が毎日使用する遊具であり、幼稚園、小学校において専門業者による点検を引き続き実施した。

幼・小・中の連携

・**幼小中の連携**については、連絡協議会の開催や入学の際の子どもに関する情報交換、授業参観などを実施し、引き続き連携を図ることができた。

幼小連携として、小学生と幼稚園児が相互訪問し、交流を図った。また、小学6年生が幼稚園児と一緒に避難する、幼小合同避難訓練を実施した。

小中連携として、町内の全教職員が参加して合同の研修会を開催し、学力向上や授業改善について協議をするとともに、中学校教員による小学校での出前授業を実施するこ

とで、互いに高め合い、資質の向上、授業力の向上を図った。

小小連携についても、両校児童の交流により、中学へのつながりを持った取組みを引き続き進めた。

家庭・地域との連携

・町内小中3校において、**コミュニティ・スクール**を設置し、地域と連携した特色ある学校づくりを推進している。

3校の情報提供、情報交換をはじめ、教育委員会からの情報提供を行うため、小中合同の学校運営協議会を設置している。平成28年7月、平成29年2月に会議を開催し、各校の情報提供、情報交換のほか、3校が連携を取りながら、学校と地域が一体となった取組みを進めていくことを確認した。

また、幼稚園においても、地域の支援ボランティアによる活動が活発となっており、地域と幼稚園が連携して子どもたちを育成していく体制づくりが進んでいる。

特別活動の推進

・**キャリア教育推進事業**では、「ふるさとの先輩から学ぶ講演会」として、5月に銀行役員による講演会を平生中において開催した。人に負けない自分の個性を大事にし、夢を持って理想を追ってほしいと生徒たちにメッセージを伝えられた。

子どもたちがふるさとに誇りと愛着を持ちながら、夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう意欲や態度、能力の育成を図ることができた。

就学に関する支援等

・私立幼稚園に就園している園児の保護者への**幼稚園就園奨励費**、小中学生のいる家庭で学用品費、給食費、修学旅行費用などに対して一部助成をする**就学援助費**、児童は片道2キロ、生徒は片道6キロ以上を対象にした遠距離通学者のための**遠距離通学費**など、保護者の経済的負担を軽減するための助成事業を引き続き実施した。

教育の機会均等、義務教育の円滑な推進を図るための重要な事業として継続していきたい。

平成28年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	学校施設整備事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	学校施設は、子どもたちの学習・生活の場であり、学校教育活動を行うための施設であることから必要十分な教育活動が行える機能や環境整備を整えるとともに、防犯・防災性を備えた安全・安心で衛生的な施設の確保を図る。		
事業の内容	<input type="checkbox"/> 工事 ・平生幼稚園遊具点検に伴う修繕工事 ・佐賀小学校プール改修工事 ・平生中学校管理特別教室棟改修工事(教職員トイレ改修含) ・平生中学校管理特別教室棟排水改良工事 <input type="checkbox"/> 修繕 ・各小中学校及び幼稚園において、老朽箇所、破損箇所等の修繕		
事業の対象	幼稚園、小学校、中学校		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	22,003 千円	17,262 千円	13,710 千円
決算額に占める特定財源額	12,200 千円	6,400 千円	3,700 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>校舎の老朽化が進み、改修工事、修繕の必要な箇所が増えている中、年次的に工事・修繕を実施することにより学習環境等の安全を確保している。 佐賀小学校において、小プールの塗装工事を行ったほか、平生中においては、管理・特別教室棟の屋上防水改修工事・放送室の天井改修工事、教職員用のトイレ改修工事を行った。</p> <p>平成27年度に学校施設の耐震化が完了したことから、今後は老朽化した学校施設の改修については、町公共施設等総合管理計画に基づき、施設の個別計画を策定し、年次的に改修を推進していきたい。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>総合管理計画に基づいて、年次的に改修を進めてほしい。</p>
-------------	----------	---------------	-----------------------------------

平成28年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	家庭・地域とのつながりを深め、信頼される学校を創ります		
事業名	コミュニティ・スクール推進事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠
			<input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	コミュニティ・スクールに指定することで、家庭・地域とのつながりを深め、特色のある開かれた学校づくりを推進する。		
事業の内容	<p>・コミュニティ・スクール推進事業 学校運営協議会を設置し、校長の学校運営方針について、議決を得ながら、学校運営を進めていく。運営協議会委員は、有識者、地元代表、保護者代表、学校関係者の中から教育委員会が任命。学校は運営協議会での意見を尊重し、学校運営に生かしていくことで、地域と連携した特色のある学校づくりを推進している。</p> <p>平成20、21年度に平生小が文部科学省の研究指定、22年度から佐賀小、平生小を、24年度から平生中を町指定。コミュニティ・スクール推進事業交付金として上限額を20万円とし、学校の要望に応じ補助している。</p> <p>平成27年2月、小中3校の学校運営協議会の連絡会議を初めて開催し、平成28年度からは小中合同学校運営協議会を年2回開催した。各校の情報提供、情報交換をはじめ、教育委員会からの情報提供も行い、3校連携を取りながら、共同で取り組むべきことを協議し、学校、地域が一体となった取組を進めていくこととしている。</p>		
事業の対象	佐賀小学校、平生小学校、平生中学校		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	401 千円	417 千円	417 千円
決算額に占める特定財源額	-	-	-
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少
			<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
			<input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	
		<input type="checkbox"/> できていない	
事業の評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない
			<input type="checkbox"/> できていない
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る
			B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>平生小、佐賀小では、年間、5回の学校運営協議会を開催し、学校、家庭、地域が連携を深め、協力して地域の子どもを育てる体制が定着してきた。</p> <p>また、本町では地域協育ネット(学校支援地域本部事業と放課後子ども教室)を実施しており、学校支援ボランティアと一体となった取組を進めている。登下校時の見守り、放課後の見守り、学校の環境整備、地域の講師など、地域の活力を生かした取組を行っている。</p> <p>平生中では、年間6回の学校運営協議会を開催し、授業参観や学校・生徒の状況説明、また年2回の授業検討会(授業参観、ユニット型研修)への学校運営協議会委員の参加などにより、地域のニーズや評価を学校運営に反映させることができ、成果が表れてきている。</p> <p>年2回の小中合同学校運営協議会において、各校からの情報提供、情報交換のみならず、小中合同で取り組むべきことの協議を行うなど、地域ぐるみで子どもたちの育ちや学びを支援する質の高い教育支援体制を整備していくこととしている。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する</p> <p><input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了</p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>町の特色、学校の特色を生かしながら、学校、家庭、地域が協働して子どもたちの自主性を伸ばし、保護者、地域への周知に努めるなど、継続して取組を進めてほしい。</p>
-------------	----------	---------------	---

平成28年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	学力向上と確かな「生きる力」を育てます		
事業名	佐賀小学校小規模特認校事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	特色ある教育活動を行う小規模な学校(佐賀小学校)の一層の活性化を図ることと併せ、佐賀地区の活性化を図る。		
事業の内容	<p>小規模校の特性を生かした教育活動を推進している小学校で学びたい、子どもを学ばせたいという希望者に対して、一定の条件のもとに通学区域外からの入学を認め、児童を受け入れる。</p> <p>①就学を希望する児童(就学前を含む)が町内在住または就学時期までに町内に転入する見込みであること。 ②保護者の負担(バス通学費の一部助成あり)及び責任において、児童を通学させることが可能なこと。 ③保護者が小規模特認校の教育活動等に賛同し、協力できること。 ④原則小学校卒業まで在籍すること。</p>		
事業の対象	事業実施:佐賀小学校 対象:平生小学校区在住の児童		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	— 千円	10 千円	10 千円
決算額に占める特定財源額	—	— 千円	— 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>佐賀地区の活性化のためには、佐賀小学校の存続が大きな課題である。 佐賀小学校を地域コミュニティの核として位置づけ、地域を挙げて学校を盛り上げるとともに、児童の確保に向けた取組も強化しなければならない。 2回の制度説明会やオープンスクール(学校公開)を開催し、児童の募集を行ったところ、4名の応募があり、それぞれ就学を許可したところである。 今後、様々な媒体を活用して、佐賀小学校の魅力と小規模特認校制度をPRしていきたい。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>佐賀地区の人口定住につながる取組の一環として、佐賀小学校の魅力をも町外、県外に向けて、情報発信してほしい。</p>
-------------	----------	---------------	--

平成28年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	学力向上と確かな「生きる力」を育てます		
事業名	学び支援事業(新規)		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	平生町の子どもたちの自発的な学習意欲を支援するため、実用英語技能検定の受検を促し、英語力の向上を目指すこと及び保護者の経済的負担の軽減を図ることを目的として、検定料助成金を交付する。		
事業の内容	実用英語技能検定の検定料の1/2を助成する。(1年間に1人1回分を助成する。)		
事業の対象	平生中学校生徒		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	— 千円	— 千円	79 千円
決算額に占める特定財源額	—	— 千円	— 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

判定説明考察	<p>助成金対象の受検者は3学年合計で66名(1年:17名、2年:22名、3年:27名)となった。年複数回、受検する生徒もおり、延べ受検者は96名であり、制度導入前に比して、受検者は増加している。</p> <p>助成制度の周知を図りながら、生徒の自発的な英検受検の意欲を支援していきたい。</p>
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	A	評価委員意見	<p>町の特色ある取組の一つとして、生徒の自発的な学習意欲を支援し、学力の向上を目指してほしい。語学の資格取得は社会の流れであり、将来を見据えて、生徒に自発的な英検受検を促すことも重要である。</p>
------	---	--------	--

平成28年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	学力向上と確かな「生きる力」を育てます		
事業名	平生っ子学びのイノベーション推進事業(新規)		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	社会の情報化が急速に進展し、今後も更なる情報通信技術(ICT)の発展が予想される中、学校においてもICTを活用した「わかる授業」の実践や、児童生徒の「情報活用能力」の育成、校務の効率化等のニーズが高まっていることから、学校のICT化を図る。		
事業の内容	電子黒板1台、書画カメラ(実物投影機)1台、パソコン1台及びタブレット学習システム(タブレット端末と電子黒板をつなぎ、子供たちの集中力・理解力を高めるインタラクティブ(双方向)な授業を可能にする学習支援システム)を佐賀小学校へ導入		
事業の対象	佐賀小学校児童及び教員		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	— 千円	— 千円	1,390 千円
決算額に占める特定財源額	—	— 千円	— 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>平生っ子学びのイノベーション推進事業として、平成28年度は、佐賀小学校に電子黒板、書画カメラ、パソコン及びタブレット学習システムを導入し、ICTを活用した「わかる授業」の実践や、児童の「情報活用能力」の育成に努めた。 今後、平生小学校及び平生中学校においても年次的に整備を進め、学力の向上につなげていきたい。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>ICTを導入することで、授業改善もみられるなど、成果は出ているようである。今後も年次的に整備を進めてほしい。</p>
-------------	----------	---------------	---

社 会 教 育

社会教育

基本方針『学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進

と学習成果活用の促進』

青少年健全育成活動の推進

・青少年の犯罪防止と交通安全を目的に、**育成センター車による見回り**や、防犯ボランティアによる月2回の**夜間防犯パトロール**を実施した。また、有害図書の点検巡回指導として、**子ども環境クリーンアップ作戦**を実施するなど、地域や生徒指導委員会、警察等関係機関と連携し組織的な取組みを行った。

・地域の青少年の健全な育成を図ることを目的として平成24年度から実施している「**未来を担う平生っ子育成促進事業**」では、今年度も全7地区から申請があり、どんど焼きやイモの植え付けや凧づくり、ケーキづくりなど多様な事業を実施した。また、町民会議独自の事業として、平生幼稚園で餅つきを実施するなど、地域ぐるみで三世代交流が図られた。

・**町子ども会活動**については、新たな試みとして、**夏休み企画子ども会研修旅行**を8月に実施した。由宇青少年自然の家において実施した研修旅行では、31名の児童とその保護者など多くの参加があり、研修施設の指導者により体験研修として七宝焼き作りを行った。この研修により、学年を超えた子どもたちの交流が図られただけでなく、保護者同士の交流も深めることができた。

また、昨年度に引き続き、**平生町文化財マップ作り**を実施し、町内の歴史や文化について学ぶと共に、地域の有識者とも交流が図られ更に郷土愛を深めることができた。

・今年度14歳を迎える中学2年生を、地域・家庭・学校が連携してお祝いするため、平生町青少年育成町民会議、平生町教育委員会及び平生中学校の共催により「**立志の集い**」を平生中学校体育館にて開催した。今回で第3回目を数えることとなった「立志の集い」では、中学2年生全員による立志の誓いの発表や合唱などが行われたほか、3年生から2年生に充てたメッセージの掲示などがあった。自分の志を発表する2年生の立派な姿は、1年生や先生方、保護者や地域の方々に、頼もしさと感銘を与えた。

生涯学習の推進

・生涯学習の推進については、町民憲章の第4項「**勤労をととび 活力にみちた 豊かなまちをつくります**」の具現化の取組を展開した。本年度も**啓発ポスター**や**標語募集**を行い、ポスターについては56点、標語については、448点もの応募があった。優秀作品については、秋の文化行事期間中に**花いっぱい運動**の優秀団体とともに、生涯学習表彰式において表彰した。

・各公民館では、利用者協議会・運営協力委員会が主体となり、**公民館まつり**や**盆踊り**、各種公民館行事を実施し、地域の絆づくりや文化の発展に寄与することができた。中でも、曾根公民館まつりでは、中学生がふるさとの民話を題材に作成した紙芝居の披露や、祭りのサポートを行うなど、世代を超えたボランティアの輪が大いに広がった。

・**生涯学習まちづくり出前講座**については、各小学校や地域の団体から多くの申し込みがあり、延べ29団体、873人が受講した。また、広報に掲載している生涯学習推進だよりのコーナーでは、公民館利用団体の会員数減少を食い止めるため、今年度から各種サークルの紹介に特化したものに変更した。毎号2団体の紹介を行い各種団体の活性化や増員を進めるとともに、生涯学習意識の高揚を図った。

人権教育の推進

・今年度も人権教育と啓発を推進する事業として、**平生町人権学習講座**を3日間にわたり開催した。1日目では、近年社会問題になっているネットトラブルについて、「子どもを取り巻くネットトラブルの現状と対応」と題した公演会を実施した。2日目は、「一人一人が大切にされ、連帯感あふれる平生町を創りましょう」と題した講演会を実施し、3日目にフィルムフォーラムを開催した。3日間の開催期間中、延べ144人の受講があり、人権意識の高揚を図ることができた。

・昨年度に引き続き、**人権コラム**「つながり めくもり」を毎月広報「ひらお」へ掲載し、平成29年3月号で75回を数えることとなった。また関係者が各種研修会に参加することにより、今後の人権教育の推進について意識の深化を図った。

文化活動の推進

・平成27年12月県事業により土手町南蛮樋の移築復元事業が完了したことを記念し、平成28年4月に**土手町南蛮樋移築復元完成**記念行事を開催した。完成披露イベントでは、「ありがとう忠右衛門さん」の紙芝居やマウンテンマウスの楽曲、平生町生活改善実行グループ連絡協議会の方々により、開作鍋がふるまわれ、多くの地域の方や子どもたち

が集まり完成をお祝いした。

・10月12日、コジマ・ムジカ・コレギアさんを出演者にお迎えし、**第51回平生町音楽鑑賞会**を開催した。19名の弦楽合奏団が奏でる本格的な生のクラシック音楽は、来場者を魅了させ、芸術文化の推進を図ることができた。また、昼の部では、子どもたちにバイオリン演奏を体験してもらうコーナーもあり、小学生にも親しみやすい音楽鑑賞会であった。

・平成27年度からの継続事業として、土手町南蛮樋移築復元事業に伴い出土した、**南蛮樋基礎部木材のPEG法による保存処理**を実施し、成果品を歴史民俗資料館に展示した。10月には、般若寺仁王門を町指定文化財に指定するとともに、説明看板を設置した。また、老朽により使用が困難であった締太鼓2張の修理を行うなど、様々な文化活動の推進を図った。

社会教育施設の整備

・利用者の安全安心を促進するため、平生町の指定避難所でもある**中央公民館の耐震改修及び1・2階のトイレ改修**を実施するとともに、中央公民館消防設備改修を行った。さらに、中央公民館1階談話室、3階講座室、佐合島コミュニティセンターの空調の改修を行い、館利用者の快適な学習環境の推進を図った。

・体育施設においては、ハートランドひらお運動広場の防球ネットの張替を工事請負で、武道館の空調機をリースにて更新を行い、施設の維持管理に努めた。また佐合島の海水浴場に設置されていた公衆トイレは、コミュニティセンターのトイレが代用できることから撤去を行い、施設の整理を図った。

読書活動の推進

・子どもの読書活動の推進については、子どもたちが自主的に読書習慣を身に付け、生涯にわたって本と親しむことができる環境づくりを推進するため、「第二次平生町子ども読書活動推進計画」により、昨年度に引き続き、事業を推進した。

・家庭、地域における子どもの読書活動の推進を図るため、読み聞かせの技術向上を目的とした「**絵本読み聞かせ講座**」や、幼児期の読み聞かせの大切さの意識啓発を目的とした「**親子で楽しむ絵本講座**」を実施し、保護者やボランティア団体から好評を得た。

・「**夏休み子ども移動図書館 子ども文庫**」を開催し、夏休み期間中の読書環境の充実に努めた結果、幼・保・小・中学校への配本は1,600冊を超えた。また、「**一般向け移動図書館**」では、リクエストに応じた本の配布を行うとともに、館内の展示コーナーや掲示板・広報で新着本の紹介を行い、読書機会の拡大を図った。なお、子どもの読書活動の推進に向けての長年の図書館の取組みが認められ、平成28年4月に「平成28年度子どもの読書活動優秀実践図書館 文部科学大臣賞」を受賞することができた。

・**ひらお図書館まつり**を昨年度に続き開催した。「本のリサイクルコーナー」や「お話し会によるイベント」に加え、新たに平生中学校総合文化部による「ふるさと平生町の民話と伝説の紙芝居」を組み入れることにより、地域に密着した図書館まつりとなった。

・本の管理や検索ができる**図書館情報システムの更新**を行った。これにより、利用者へのサービス向上が図られたこともあり、図書館ホームページでは、年間27万件を超えるアクセスがあり、約430件の予約を受けることができた。

歴史民俗資料館

・平生町歴史民俗資料館では、町内の遺跡や古墳からの出土品及び絵画や掛け軸など文化財を保管・展示した。特別展示では、土手町南蛮樋の移築復元工事の完了を記念し、解体の様子や使用された木材や石材を展示したほか、**特別展示事業**として町内在住の方々の「絵画展」や「竹細工展」を開催した。さらに、昨年好評であった「鑑賞石展」、「水墨画展」を今年度も開催するなど、地域文化の向上に努めた。

・平成29年3月には、「瀬戸内の海賊 総大将 村上武吉の挑戦」と題して**歴史講座**を開催し、郷土の歴史について理解を深めることができた。

阿多田交流館

・阿多田交流館は、当時を偲ばれるこの地に平成16年に開館し、平和教育の学習の場や、地域交流の場として活用されており、平成28年度約4,200人の来館者があった。

・広島広域連携中枢都市圏のテレビ広報番組において、地域の文化や歴史とふれあう場である阿多田交流館の紹介が放送枠として取り上げられ、平成28年8月に広島県内で放送された。平生町の紹介の後、館内の紹介があり、戦争当時の基地の様子や回天に関する資料の説明により、命の尊さ、戦争の悲惨さを紹介し、平和の大切さなどをアピールすることができた。

生涯スポーツの推進

・平成25年度に策定した「平生町スポーツ推進計画」が3年目を迎え、その計画の基本施策に、健康及び体力の保持増進の取組としてラジオ体操の普及・啓発を掲げていることから、曾根・佐賀・大野・平生まち・むら地区のコミュニティ協議会の主催で「**ラジオ体操会**」が開催されており、スポーツ推進員等による指導が行われた。

また、健康・体力づくりの意識と実践意欲の高揚を図り、生涯スポーツを推進するため**ファミリースポーツ・レクリエーション大会**や各種スポーツ大会を開催した。「**平生町駅伝競走大会**」については、平成27年度からコース距離を14.9kmから11.9kmに変更したが、引き続き開催することができた。

・本町の山口国体での開催関連競技であった「サッカー」を地域の活性化につなげるため、県の補助事業である「**地域スポーツ人口拡大推進事業**」により「する・観る・支える」のスポーツ人口の拡大を目指して、平成29年3月にホームタウン化したレノファ山口の選手等を講師に迎えて**少年サッカー教室**を開催し、交流や技術習得、スポーツを通じた子どもたちの健全育成を図った。

その他にも、基礎動作、基礎体力づくりの習得を目的に、実業団陸上競技部に所属していた元選手を講師に迎え、**少年陸上競技教室**を開催した。

平成28年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯学習社会の実現を推進します		
事業名	中央公民館耐震化・トイレ改修事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input checked="" type="checkbox"/> 法令等 <input type="checkbox"/> 単独
事業の目的	中央公民館の耐震化工事及びトイレ改修工事を実施することにより、施設利用者の安全と快適な生涯学習環境の確保を図る。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館耐震改修工事に伴う工事監理業務委託 ・耐震改修工事・トイレ改修工事 鉄骨ブレースの設置、1階第1研修室改修、2階視聴覚室床改修 1階及び2階のトイレ改修(洋式化) 		
事業の対象	町民		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	5,195 千円	- 千円	69,671 千円
決算額に占める特定財源額	-	-	15,478 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり B ほぼ目標どおり D 目標を大幅に下回る

判定説明考察	<p>中央公民館は、生涯学習の重要な学習施設であり、平生町地域防災計画でも指定避難所となっている。町民の安全・安心と施設利用者の快適な生涯学習活動を確保するため、早急に施設の耐震化を図るとともにトイレの洋式化を図った。</p> <p>この度の事業により、町民の安全・安心が確保され、第4次平生町総合計画の施策でもある生涯学習社会の実現に向けて機能強化が図られた。</p>
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 28年度で終了

外部評価	A	評価委員意見	<p>公民館が地域交流センターとなり、所管替えとなったが、今後も地域の拠点施設の安全性、利便性の向上に向け、耐震化及び改修を進めてほしい。</p>
------	---	--------	---

平成28年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	文化活動を推進します		
事業名	土手町南蛮樋基礎木材保存事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	土手町南蛮樋 樋門本体下梁材の保存(劣化防止処理)を図る。		
事業の内容	熊川の河川改修工事に伴い、平成24年から土手町南蛮樋の移築復元工事が行われた。その際掘り出された樋門本体下梁に使用されていた部材を、PEG法(恒温層を用いたポリエチレングリコールへの置換)により保存処理を行った。 処理に時間がかかるため、平成27・28年度の2か年の継続事業で実施し、28年度末で完了した。なお、事業費は県からの補助金を充当している。		
事業の対象	町民		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	- 千円	1,620 千円	1,404 千円
決算額に占める特定財源額	-	1,620 千円	1,404 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる

<p>判定説明考察</p>	<p>土手町南蛮樋は慶安四年(1651年)から万治元年(1658年)の間に大野毛利氏の初代、就頼により行われた平生開作の時に造られたと推定されている貴重な建造物で、現在県の指定文化財となっている。このような貴重な文化財を後世に残すため、土手町南蛮樋の移築工事の際に出土した樋門本体下梁木材について保存処理を実施した。 処理が完了した成果物は、現在、平生町歴史民俗資料館に説明看板とともに設置され、当時の状況を知る貴重な資料の一つとなっており、来館者に具体的でより解りやすい資料として提供している。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/>28年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>B</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>保存した木材を貴重な資料として活用することと併せ、移築復元された土手町南蛮樋のPRを行ってほしい。</p>
-------------	-----------------	---------------	--

平成28年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯学習社会の実現を推進します		
事業名	勤労青少年ホーム教養講座事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	若者に新たな趣味や教養にふれる機会を提供することを通して、若者の生きがいや仲間づくりを創出する。		
事業の内容	<p>年間に3講座を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬式テニス教室(5/18～7/6) 毎週水曜日18時30分から20時30分までの講座で、13名の参加があった。平生町硬式テニス連盟に指導を依頼し、硬式テニスの基礎技術を学んだ。 ・料理教室 平生町食生活改善推進協議会に講師を依頼し、健康的な食生活の実践に役立つ料理やお菓子作りの基礎や、調理の技術を学んだ。 9月24日・・・料理4品 参加者11名 2月8日・・・お菓子づくり 参加者22名 ・エコクラフト入門講座(3/1、3/8) 延べ9名が参加した。平生町生活改善実行グループ連絡協議会に講師を依頼し、エコクラフト(手芸用の紙ひもを使ってかごやバックを編む)の楽しさを体験した。 		
事業の対象	町内在勤・在住の概ね35歳までの若者		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	45 千円	43 千円	33 千円
決算額に占める特定財源額	-	-	-
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる

<p>判定説明考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内在勤・在住で概ね35歳までの若者を対象に各種事業を実施している。 各事業所の中には、同世代同士の交流が少ない場合もある。また、町外出身者にとっては、職場以外に知り合いが少ない場合もあるため、平生町内の若者が集う場所の創出として必要な事業である。 ・事業費としては、報償費のみ。原材料については、受講生の自己負担としている。 ・講師を町内で活躍している団体に依頼しており、地域との連携は大きい。また、講座がきっかけとなり、受講者の町内行事への積極的な参加にもつながっている。
<p>事業の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>B</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>教養講座への参加を呼びかける広報を積極的に行うほか、講座の内容についても検討してほしい。</p>
-------------	-----------------	---------------	---

平成28年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	文化活動を推進します		
事業名	歴史民俗資料館特別展示事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	町内で活躍している文化・芸術に優れた人の作品を紹介することにより、町民に文化と芸術に触れあう機会を提供し、生涯学習の推進を図る。		
事業の内容	年間に4回特別展示を実施 ・絵画展(7/2～7/31) 中村護氏(西浜)の絵画20点を展示(入館者170名) ・竹細工展(9/1～9/30) 橋野勲氏(土手町東)、若山榮治氏(園田)の作品併せて約70点を展示(入館者382名) ・鑑賞石展(11/20～12/17) 古道明氏(小山)外の所有する鑑賞石30点を展示(入館者143名) ・水墨画展(2/5～3/5) 曾根墨遊会の作品20点を展示(入館者176名)		
事業の対象	町民		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	0 千円	0 千円	0 千円
決算額に占める特定財源額	-	-	-
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る

<p>判定説明考察</p>	<p>・町民が気軽に文化・芸術に触れられる機会を創出し、町内在住の学習団体や文化・芸術に優れた人の活躍の場を提供している。</p> <p>・出展者には、町の文化・芸術の発展に寄与する事業であるという認識のもと、無償で作品を出展いただいております、事業費をかけない運営ができています。</p> <p>・歴史民俗資料館には、平生町の貴重な資料が展示されているが、バラエティに富んだ特別展の開催により、資料館への来館者増加にも寄与するとともに、平生町の歴史に触れるきっかけづくりにも繋がっている。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する</p> <p><input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了</p>

<p>外部評価</p>	<p>B</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>芸術、文化に触れ合う機会として、特別展示を企画されているが、来館者がもっと増えるよう工夫されたい。</p>
-------------	-----------------	---------------	--

平成28年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯スポーツを推進します		
事業名	スポーツ推進事業(ファミリースポーツレクリエーション大会)		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	三世代にわたる家族を中心とした地域の人々がともにスポーツ・レクリエーションを楽しむことを通して、健康・体力の維持・向上を図り、生涯スポーツ気運を盛り上げるとともに、交流と親睦を図り、こころ豊かで明るい地域づくりをめざす。		
事業の内容	体育協会をはじめ、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、子ども会、老人クラブ、婦人会、商工会女性部、PTA連絡協議会、ゆうゆうクラブ、ライオンズクラブの団体で「ファミリースポーツ・レクリエーション大会実行委員会」を組織して主催する。 町内を4チーム(赤:宇佐木・竖ヶ浜、青:平生町・平生村、白:佐賀、黄:大野、曾根)に分けて、老若男女が健康づくりのため楽しめる競技を行う。		
事業の対象	町内の学校・企業、地域		
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費(決算額)	115 千円	195 千円	188 千円
決算額に占める特定財源額	-	-	-
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input checked="" type="checkbox"/> 減少
	<input type="checkbox"/> かなり減少		
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
	<input type="checkbox"/> できていない		
事業の評価	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない
	<input type="checkbox"/> できていない		
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない
	<input type="checkbox"/> できていない		
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる
			B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>平成28年度は、雨天により屋内開催となった。参加者については、屋内開催であったことから、27年度より100名程度少なくなったが、狭い屋内の開催でも、競技は楽しまれたように思えた。 また、雨天のための屋内開催ではあったが、会場準備の軽減や天候に左右されないこと、開催時間の短縮、晴天時の日よけ対策などで好評価の意見も寄せられた。</p> <p>近年、開催方法のマンネリ化が指摘され、参加者も固定化されているとの意見もあり、開催内容については実行委員会などで検討もされているが、各団体が構成された実行委員会のため、意見集約などが難しく、調整は非常に厳しい現状である。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input type="checkbox"/>現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>B</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>社会情勢の変化により、スポーツの楽しみ方のスタイルも変わってきている。開催方法や内容等、大会のあり方そのものを検討してほしい。</p>
-------------	-----------------	---------------	--